



第 72 号
 発行
 釧路湖陵同窓会
 くまざさ編集委員会
 発行日
 2018(平成30)年
 3月1日
 印刷所
 藤田印刷(株)

四半世紀ぶり 全道大会優勝!!

北海道代表で全国大会へ 湖陵高校器楽部



全国大会出場を果たした器楽部

昨年9月2日、札幌市民ホール「キタラ」において「第62回 北海道吹奏楽コンクール」が開催され、その中の「高等学校B編成の部」に、顧問の菊地貴広先生率いる湖陵高校器楽部が釧路地区代表として出場しました。B編成とは、演奏者が35人以下のバンドで、北陽高校のように36人以上の所帯のバンドは、A編成となります。

そもそも吹奏楽強豪校の多い釧路地区大会を勝ち抜き、全道大会まで駒を進める事自体が至難の業なので、湖陵器楽部が北海道大会に出場するのは実に25年振り(一)のことでした。しかも、この全道大会において1位となる「金賞」を獲得し、晴れの「北海道代表」として全国大会への出場権を獲得してしまっただけです。

なぜ、四半世紀も「高い壁」として立ちどかっていた全道大会に出場でき、しかも最高の成績で優勝することができたのか、出場時に部長を務めていた3年の宮北晏未(はるひ)さんに聞きました。

「これまでコンクールに向けての練習では、全体での合奏・アンサンブルを重視して行ってきましたが、これでは同じことばかりを何度も繰り返して、効率が悪いと気付いたのが大きかったように思います。そこで、楽器ごとやパートごとなど、小グループに分かれて練習を重ねたところ、とて

目次	「貧血ケア」出版	2頁	同窓会総会	6頁
	訳本「闇夜にさまよう女」	2頁	叙勲・褒章を祝う・教職員湖陵会	7頁
	活躍する湖陵生、池端さん	3頁	西川さん最優秀、山岳部全国報告	8頁
	誠愛勇から22期	4・5頁	編集後記	8頁

湖陵同窓会HP <http://kushiro-koryo.sakura.ne.jp/>



演奏を繰り広げる器楽部

もスピーティーに音が合うようになりまし
た」と宮北さん。つまり、練習の仕方をこれま
でとガラリと変え、過去の伝統に縛られない、
彼女たち独自の練習法を編み出したのです。
およそ30名の部員たちは10月15日、栃木
県宇都宮市で開催された「第17回東日本学
校吹奏楽大会」のステージに立ちました。
演奏するのは、地区大会からずっと慣れ親
しんできたオーストリアの作曲家、フラン
ツ・フォン・スッペ作曲のオペレッタ「ス
ペードの女王 序曲」。ウィーン風の優雅さ
と軽妙さ、さらにイタリア風の優雅な旋律
美を感じさせる軽快な曲です。



「貧血ケア手帖」出版

濱木珠恵さん(湖陵43期)

東京都内のナピタスクリニック新宿院
長の濱木珠恵さん(湖陵43期)は、「ドラ
キュラ女子のための貧血ケア手帖」(主婦
の友社、A5判・143ページ・
1300円(税別))を昨年出版
しました。写真

濱木さんは、北海道大学医学
部を卒業、血液疾患の治療など
に従事したあと、2012年か
ら同院長を務め、貧血外来や女
性内科などで女性の健康をサポ
ートしています。

女性の5人に1人が貧血を抱
えているといわれていますが、
そんな10代から40代を「ドラキ
ュラ女子」と呼ぶそうです。普

「なんだかいつも体がだるい...」
それってトシのせいだけではないかも？
この1冊でオトナ女子を悩ませる貧血のすべてがわかる

残念ながら全国の壁は想像以上に厚く、
銅賞を受賞するにとどまりましたが、この
大会出場によって得られた「自信」と「経験」
は、1月に行われたアンサンブルコンタ
ールにおいても金賞を獲得するという「成果」
につながっています。
先輩の築いた練習法だからといって、か
たくなに守り続けることだけが伝統だとは
限りません。自分たちが良いと思った方法
を何でも積極的に試してみても、より良い方
向に進化する。それが湖陵「らしさ」なの
だろうと感じさせられる取材でした。

西村貞広(湖陵30期)



訳本「闇夜にさまよう女」

辻谷泰志さん(湖陵20期)



辻谷泰志(湖陵20期、立教大学大学院フ
ランス文学専攻課程中退)さんが訳本「ビ
ュルソロ著、闇夜にさまよう女」(405
ページ、定価2500円+税、国書刊行会
2017年発行)写真を出しました。
本の帯に「フランスSF大賞等受賞の人気
作家ビュルソロの最高傑作ミステリー、遂
に邦訳！」とあります。一読あれ！

田巻恒利(湖陵18期)

段、「疲れやすい」「息切れがする」「眠れな
い」などの症状は、貧血が原因の可能性もあ
りますが、当たり前のことと思っている女
性が多いと言います。同書では、現在の体の
コンディションをチェックでき、それぞれ
自覚症状にあった対策方法を紹介します。

濱木さんの高校時代は、ちょうど校舎
が富士見から現在の緑ヶ岡に移転の時期。
「今だから言えますが、屋上に上って景色
がとてよかったです。記憶しています。
ほんの少しの期間ですが、教室から春
採湖を見ていると、太陽の光に照らされて
キラキラ湖面が輝いたことを思い出しま
す」と振り返ります。

「気づかないうちに貧血を放置し、つら
いまま過ごしている方も多いと思います。
貧血は治せることを知ってほしいですね」
と濱木さんは話しています。

(釧路新聞2017年10月4日付から)

星 匠(湖陵30期)

釧路の魅力伝えたい

女優・モデル・タレント・歌手

池端レイナさん(湖陵58期)



「夢は大きく」と池端さん

池端レイナさんは現在、日本と台湾を往来しながら女優、モデル、タレント、歌手として、忙しい毎日を送っています。高校を卒業後、東京の大学に進学した池端さん。大学4年生の夏に、友人の勧めで受けたモデルオーディションでグランプリを受賞。当時に頂いていた内定を辞退し、大学卒業と同時に芸能界の道に進みました。

23歳という芸能界では遅いデビューだったこともあり、毎日プレッシャーと不安で押し潰されそうになったこともありました。そんな時、日台合作映画「一分間だけ」で、日本人モデル役の仕事が舞い込みました。中国語のセリフはなかったのですが、スタッフと中国語でコミュニケーションをとりた

いという気持ちから、撮影が始まる2カ月前に単身で台湾に渡り、中国語を勉強しました。この映画の出演がきっかけで、時間を見つけては台湾と日本を行ったり来たりする生活を始め、2015年11月、台湾でCDデビューを果たします。その後、2016年には台湾で主演ドラマ、バラエティのMC、

CMなどにも出演するようになり、日本でも「逆輸入女優」としてフジテレビの月9「好きな人がいること」やバラエティ番組にも出演。池端さんは「日本と台湾の架け橋になれば」と話します。

ところで、池端さんの高校時代の思い出は「文化祭」。駐輪場での行灯制作や、ダンス練習、演劇とどれも思い出がたくさん。「校内だけではなく、旭会館を借りて演劇やダンスの練習、夜な夜な友達と衣装を作った日々が懐かしいです」と嬉しそうに語っていました。

池端さんの現在の目標は、「釧路市の観光大使になること」。日本全国の皆さんだけでなく、台湾の人たちにも釧路の魅力を伝えたい。そんな池端さんはYouTube上に「Leinaの台湾行きたいわん。」という番組を持ち、自身で企画、編集をしているそう。今は日本語で台湾を紹介していますが「いつか中国語で釧路を紹介する番組を作れたらいいな」と語ってくれました。

最後に、池端さんから現役の高校生にメッセージをもらいました。

「夢は大きく!! 持つて欲しいです。高校卒業後は、釧路を離れるかもしれませんが、やっぱり地元や地元の友人は特別です。湖陵生として誇りを持ち、釧路のことを忘れずにどんな道に進んだとしても頑張っ

星 匠(湖陵30期)

集い 思い出を語り また思い出をつくる

湖陵22期 藤原 節男

湖陵高校での思い出

私たちは、昭和42年4月に入学。通学区域が大学区制になって2年目の年の入学だった。A組からI組の9クラスあり、書道・美術・音楽の選択教科でクラス分けされていた。私たちC組は、書道選択のクラスで入学当初45名、男子が3分の2、女子が3分の1の割合だった。一部生徒の入れ替えがあったが、3年間同じクラスだった。

湖陵高校の校則は、他校に比べ緩かったように思う。喫茶店の出入りも自由だったし、下駄履き登校も認められていた。私は、そんな湖陵の自由な風気が好きだった。

3年生の時に、生徒会で制帽廃止運動が起こり、先生方とも話し合って結局、制帽自由化が認められた。ほとんどの男子生徒が制帽をかぶらずに登校してきていたが、私は、バンカラ気分、穴の開いた学生帽をかぶり下駄履きで闊歩することになっていたので、卒業まで帽子をかぶって登校した。

私の湖陵時代は、部活が中心の生活で、剣道に夢中になっていた。個人戦でインターハイや国体に出場した先輩にあこがれ、私たちの時代に全道制覇し、団体戦で全国大会に出場したいという夢を持っていた。

旧校舎の体育館だった雨漏りのする古い剣道場で、一生懸命稽古に汗を流した。男沢先生の稽古は大変厳しかったが、その中にユーモアもあり、なんとか耐えることができた。残念ながら念願はかなえられなかったのだが、目標に向かって夢中になっていた青春時代のいい思い出となっている。

特に修学旅行

高校生活3年間の一歩の思い出は、やはり、修学旅行である。10月30日から11月6日の7泊8日の日程で東京・京都・奈良・鈴鹿などを回った。前年度より日程が短縮され、3班編成から9クラス合同の大集団での修学旅行だった。

印象に残っていることは、釧路から上野まで列車と青函連絡船で、約30時間かかって移動。その列車の中で、本州に入ってから食として出た駅弁のご飯(米)が、とてもおいしかったことがなぜか記憶に残っている。

京都・奈良では、バスで金閣、清水寺、二条城、東大寺など9カ所の神社仏閣、城などを巡った。教科書や小さな画像でしか見たことがなかった歴史的建築物や歴史的文化財の前に立って、その壮大さと日本人の優れた技術、繊細な心をほんの少しでは

あるが感じ取ることができた。ハードスケジュールではあったが、日本の歴史に触れた感動深い経験であった。

また、古い旅館の部屋で集まって、騒ぎ過ぎて叱られたのも楽しい思い出の一つである。

何気ない思い出の場面が、PCのスライドショーのように浮かんでくる。ただ、年月が経っているせいかどれも色褪せていてピンボケ状態なのだ。

3つの同期会

そんな思い出いっぱい湖陵を卒業して四十有余年が経って、3つの同期会を開催した。

まずは、還暦を迎える年の平成23年11月19日に、釧路全日空ホテルで「還暦同期会」を開催した。

定年退職で、一区切りついて第二の人生を歩む者も多い。その区切りの年に集まることに意義があると、釧路22期幹事会を開いて計画を練った。次の年に100周年記念式典もあり、名簿を改めて整備して、100周年記念の事業内容についても含めて案内した。

当日は、38名の仲間が全国各地から参加してくれた。久しぶりの友との再会、中には卒業以来41年ぶりに会った懐かしい友との再会に歓喜の声が上がる。その友に案内がでてよかったと思う。40年以上それぞれの人生を歩み、別々の経験をし



還暦同期会 (平成23年)

てきた。その互いの近況を語り合い、高校時代の思い出話に花が咲く。その語らいの場は、当時そのままである。盛り上がったまま、末広の二次会会場に向かった。青春時代に戻ったようなひと時だった。



同期会（平成27年）

2つ目は、翌年の平成24年、創立100周年記念式典・祝賀会参加の呼びかけと共に同期会の案内をした。

9月29日に、釧路市観光国際交流センターで行われた記念式典に30名ほど参加し、その後、釧路全日空ホテルで同期会を開催した。そこには、昨年のメンバーとはまた違う同期生の参加もあり、交流の輪が広がってきたことを実感した。

3つ目の同期会は、平成27年10月10日に、ジャスマックプラザ札幌で開催した。札幌在住の仲間が中心となって準備を進めてくれて、約60名の参加があった。ここでも、競い合って勉強しあった高校時代の思い出を懐かしそうに話したり、40年のそれぞれの人生の物語を語り合ったりする姿があった。近況報告では、再会の喜びを語ったり、海外に住んでいる参加者もいて、その海外での暮らしぶりを話してくれた。終始和やかな雰囲気での同期会であった。また、私にとっては、中学校から一緒に剣道部で汗を流した4人の仲間が久しぶりにそろう、酒を酌み交わすことが出来た思い出深い同期会ともなった。

「湖陵」という学び舎で過ごした3年間の思い出の交流は、互いの心の絆を深めている。

釧路22期幹事会

地元釧路に残っている22期の仲間は少ないが、釧路同窓会の幹事期の取り組みを通じて絆を深め、釧路22期幹事会を組織し



釧路22期幹事会

た。各学級に幹事をおき、核となつて同期会組織を維持している。

年に一、二度集まり、釧路同窓会への取り組みを相談したり、それぞれの近況やクラス会での様子の報告、同窓会役員の佐藤

文昭君からは札幌、東京同窓会などの様子を報告してもらっている。

そして、次の同期会をどうするかの話になる。

今の年代になったから集まれるものもある。元気なうちに一人でも、二人でも多くの同期の仲間が集い、思い出を語り合い、薄れかけてきた高校時代の思い出映像をクリヤーにしていくことも楽しいだろう。また、楽しいひと時を過ごし、新しい思い出を作っていくことも、これからの人生を豊かなものにしていくであろう。

今年は、東京で開催し、屋形船にでも乗らないかの声が……。どうなるか、楽しみである。

同窓会総会

500人参加、交流深める

釧中・釧路湖陵同窓会総会が昨年8月12日に釧路センチュリーキャッスルホテルで開かれました。総会には、地元や道内外から約500人が参加し、交流を深めました。

総会では、校歌斉唱、物故同窓生に黙とうをささげたあと、釧路湖陵同窓会の島本幸一会長（湖陵19期）が「地域の人口減少は

厳しい問題です。学校、PTA、同窓生が連携し、地域の学校として継続していくことに協力してください。今日は大いに楽しんでください」とあいさつ。続いて蝦名大也釧路市長（湖陵29期）と釧路湖陵高校の橋本達也校長が祝辞を述べました。このあと同高校の合唱部、器楽部、チアリーダー部、最後に応援団が日ごろの練習の成

果をステージ上で披露し、先輩たちから大きな拍手を浴びていました。

続く懇親会では、大日向倫子さん（湖陵20期）が昨年自費出版した「春採湖物語」キラリと光る宝たち」をもとに春採湖の四季を説明。最後は松島良治さん（釧中31期）が懇親会を締めくくりました。

今年の同窓会は8月11日の予定で、当番幹事は、湖陵36、46、56期です。

星 匠（湖陵30期）



あいさつする橋本校長（右）



美しい歌声を披露する合唱部



先輩たちを魅了した器楽部



気合いの入った応援団



元気いっぱいのチアリーダー部

19期同期でお祝い

秋の褒章、叙勲



伊貝さん



島本さん

2017年秋の褒章は、藍綬褒章・更生保護功績で加部忠夫さん（湖陵11期）、黄綬褒章・業務精励（造船関連業）で島本幸一さん（同19期）、黄綬褒章・業務精



2人の功績をたたえた祝う会

励（金融業）で遠藤修一さん（同26期）、同じく秋の叙勲は、瑞宝双光章・調停委員功労で伊貝正志さん（同19期）が受章されました。そのうち湖陵19期の有志による祝う会が、1月27日に釧路市生涯学習センター内の「まいづる」で開かれ、伊貝さんと島本さんの受章を祝いました。

伊貝さんは、家事調停委員を21年、民事調停委員を14年務めました。父親も受章しています。島本さんは、船舶関連の機関整備で働く社員の技術向上と社会的地位確立のため「船舶機関整備士」制度に関わるなど業界の発展に寄与してきました。

19期会は昨年、一度一区切りをつけていましたが、会長の長谷川涉さん、幹事代表の清水不二男さんらが呼びかけしました。この日参加したのは24人。長谷川さんのあいさつに続いて、伊貝さん、島本さんがそれぞれ受章の喜びを述べました。懇親会は同期の長年に渡る活躍を参加者全員で祝福し、和やか雰囲気で行われました。

星匠（湖陵30期）

教職員湖陵会が研修会

子供たちに 釧路の良さを



教職員湖陵会で講演する森崎代表取締役

釧路教職員湖陵会（小向聡会長・湖陵29期）の研修会と懇親会が、昨年11月18日アクアホールで開催されました。講師に株式会社MOKA代表取締役の森崎三記子氏（湖陵27期）を招き、ハローワークでの個別相談業務をしながら、行政では手の届かない「女性就労に係わる」をテーマに講演をしていただきました。会員相互の研修を目的に、教員以外の異業種の湖陵同窓生を講師に招く研修会は、教員としては大変意義のあるものです。

2017年3月27日に設立された、同社は、「Mottoもつと、Ookikuおおきく、Kakukoyokuかっくよく、Aritaiありたい」を旗頭に、「人づくり」「地域づくり」を目標に「人が生き生きと自分らしく暮らせるための応援をするために設立されました。

さまざまなお話をしていただきました。「桃太郎と浦島太郎のどちらになりたいか」「夢と希望の違いって」「ウィーク・タイズの大切さ」「まんざらじゃないきかた」「頑張ることをやる」「自分で自分のボスになる」等々…。

そして「子供たちに釧路の良さを知ってほしい」「そのために、まず大人が釧路の良さを知ろう」「釧路の良さを知るために、外へ出よう」「そうすると子供たちは、心豊かにグローバルな視点を身につけて、必ずや故郷に戻ってくる」と結ばれました。

奥田泰朗（湖陵25期）

西川さん(2年)最優秀 全道放送コンテスト朗読部門

釧路湖陵高校放送部の西川友彰さん(2年)が、昨年11月16、17日に函館市で行われた北海道高校文化連盟第40回放送コンテストの朗読部門で最優秀賞を受賞しました。同部門で最優秀賞を獲得するのは釧路、根室管内では初めてでした。



朗読部門で最優秀賞に輝いた西川さん

西川さんは高校1年時、同部に入部する際に朗読を始めました。当初は演劇部を志望していましたが、「朗読は作品と向き合えることができます。演劇と通じるものを感じ、のめり込んでいきました」と話します。年に5回ほど、リーディングサークルベガの和田ひろみさんから本格的な指導を受け、自分らしい独自の読み方を追求してきました。

同大会に向けて、北海道出身の池澤夏樹さんが書き上げた「きみが住む星」を選択して挑みました。「手ごたえはありましたので、(朗読終了後は)最優秀賞のスクリーンしか見ていませんでした。自分の名前が出た時はうれしかったです」と振り返ります。

自分の理想とする読み方について西川さんは「まだまだギャップがあります。そこを突き詰める」と必ず結果は出るはずだと語りま

す。今年8月に開催される全国大会について「2回目なので、雰囲気には慣れていきます。自分らし朗読をしたいです」と早くも次の目標に向けて意欲を燃やしています。

同部顧問の宮下敏夫教諭は「彼は作品を読み解く力が高く、独自の読み方をしています。高校生でも、聞いている人たちが感動させるように挑戦し続けてほしいですね」と期待しています。

(2017年12月19日付釧路新聞より) 星 匠(湖陵30期)

山岳部、 全国大会出場報告



全国大会を振り返る飯田顧問

釧路山岳連盟(松川和憲会長)は昨年11月9日に、今年釧路、根室地区から39年ぶりに全国大会に出場した釧路湖陵高校山岳部の顧問、飯田二三教諭を講師に迎えた

講演会を釧路市生涯学習センターで開きました。飯田顧問は同校山岳部の大会報告と創部以来の快挙を達成したこれまでの取り組みなどを報告しました。

この日は、同連盟の会員や市民登山会参加者、同高山岳部の部員など約30人が参加しました。松川会長は「すごい実力を発揮してくれました。高根の花々だと思っていたインターハイに出場したことは、山岳連盟としてはとてもうれしい」と偉業をたたえました。山岳部男子チームは昨年6月に室蘭市などで開かれた第61回全



(前列左から) 田巻、田中、佐藤、(後列左から) 奥田、西村、星

国高校登山選手権大会北海道予選会で初優勝。釧路地区からは1978年の標茶農業(現標茶)高校以来の快挙を達成し悲願の全国切符を手に入れました。

飯田顧問は昨年7月30日から山形県の蔵王・月山で行われた全国大会での部員たちの様子を写した写真をスライドで紹介し、46チームが出場した大会を説明しました。結果は39位でしたが、「審査が厳しかったが、とても良い経験ができました」と話していました。

(2017年11月12日付釧路新聞より) 星 匠(湖陵30期)

編集後記

かつては水揚げ量日本一を誇った釧路港が、一昨年あたりから大変です。昨年からロシア主張の200海里水域において流し網漁が禁止されサケマス操業が出来なくなり地元は困っています。頼りとするサンマ棒受け網漁、サケマス定置網漁、イカ釣漁は一昨年あたりから不漁となり昨年は凶漁です。

そのため地元水産加工業の倒産が起こり、水産業と関連業の売り上げが落ち込んでいます。不漁の原因に海水温の上昇、中国・台湾・韓国の漁船による公海で乱獲、漁業者の高齢化・人手不足など挙げられますが、よく分かっています。

このため地元水産加工業の倒産が起こり、水産業と関連業の売り上げが落ち込んでいます。不漁の原因に海水温の上昇、中国・台湾・韓国の漁船による公海で乱獲、漁業者の高齢化・人手不足など挙げられますが、よく分かっています。

釧路湖陵高校

〒085-0814
釧路市緑ヶ岡3丁目1番
TEL(0154)43-3131
ホームページ
<http://kushiro-koryo.hpfinfoseek.co.jp/>

くまざさ編集委員会

同窓会会長 島本幸一(湖陵19期)
同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵22期)
編集委員長 星 匠(湖陵30期)
編集委員 堀川春昭(湖陵12期)
編集委員 奥田泰朗(湖陵25期)
編集委員 田中嘉寛(湖陵36期)
編集委員 西村貞広(湖陵30期)
編集委員 須貝喜治(湖陵49期)
編集事務局 田巻恒利(湖陵18期)

くまざさ編集委員会

〒085-0850
釧路市黒金町7-13
TEL0154(22)1111
FAX0154(22)0050
釧路新聞社内 星 匠